

新型コロナウイルス感染症の対応について



衣笠 利則 議員
(21政会・加西ともて育つ会)



問 新型コロナウイルス感染症のパンデミックから2年半余りがたつが、いまだ収束せずむしろ増加傾向にある。このような状況の中、市民の安心、安全の暮らしを支えるため加西市のコロナ対応について伺いたい。

まず、市内の受入病院は。

答 9月1日現在、加西病院の発熱外来のほか、14医療機関で検査を実施し、6医療機関はかかりつけの患者以外の検査対応もしていただいています。

問 感染が疑われる場合の移動手段は。

答 症状が重い場合、特に呼吸器の症状がある方は命に関わることもあるため、救急車を要請し、感染症の疑いがある旨お伝えください。家族等の送迎は公共交通機関の利用は可能な限り控え、自家用車内でも不織布マスクを着用し、会話は極力避けて換気を十分に行うようお願いします。

問 自宅療養について。

答 健康福祉事務所からの健康観察の指示を守り、体調の悪化等があった場合は県の健康相談センターで24時間の対応が可能です。また、食事や衛生材料の確保が難しい方は加西市より軽食や衛生材料の配達をしています。

家庭内感染の予防のため、できるだけ個室で過ごし、家の中でも家族全員がマスク着用、手洗いや消毒をして換気にも努めていただ

くようお願いします。療養期間中は活動量が低下するため、無理のない程度でラジオ体操やストレッチで体を動かすことも大切です。

問 市民の安全安心のまちづくりのための今後の対応は。

答 まずは、新型コロナ感染症の自宅療養期間中に寝て過ごして筋力の低下も起こっていますので、ウイルスに勝つだけではなく日頃のフレイル予防も含め、コロナに感染してもまた健康に過ごせることをアピールしたいと考えます。また、感染の流行の長期化で情報があふれており、ホームページやLINEを活用して最新の情報をタイムリーに発信したいと考えます。

正確で分かりやすい情報を届きやすい形で伝えることで、市民の方が安心して生活していただけるよう努めます。

西村市長！ 防空壕の解体に強く抗議する



深田 真史 議員
(自由民主党・無所属の会)



問 鶴野飛行場のガイドブック(平成23年3月、市教育委員会発行)の中に戦争遺跡群のマップが収録されている。解体撤去された「L字型防空壕」はマップのどこにあるか指して。

答 (黒田議員) マップに載っていませんが、この辺です。

問 そのとおり。「L字型防空壕」はマップに載っていない。報道があるまで地元の人や一部の関係者しか知らない壕であった。

8月22日、その壕が解体撤去され、現在では跡形もない。唯一

無二の壕の解体撤去を進めた西村市長に怒り心頭だ。

7月7日、市長に対し、①壕の保存、②一般公開、を求めて会派要望を出した。7月下旬、壕の一般公開があり、市内外から多くの見学者があった。また、市民や地域団体からも「移築保存すべき」との声も上がっていた。玉丘史跡公園内の愛染古墳は佐谷町から移築保存したという例もある。

レプリカを作るのに多額の費用をかけるのに、本物はあっさり壊してしまうのはいかがなものか。

我々は最後まで保存することを求めていた。解体議案を賛成したわけでもないし、全会一致でもない。強く抗議する。

答 (市長) 「L字型防空壕」の取り壊しは、私が判断し、決定しました。壕の存在は、多くの市民が認知されていた状況には

ないと思っています。議会では、早い時期から黒田議員を中心に残すべきであるとの主張をされました。しかし、「残せない」と明快に申し上げています。

議会も取り壊しに賛成したじゃないかという気は全くありません。反対があったことを後世に伝え、平和の大切さを訴える事業に頑張っていきたいと思えます。



■その他の質問項目

- ・公共交通の今後について
- ・農業版 SDGs について